

令和8年7月13日

芦屋市議会議長
中島 健一 様

視察代表者 岩岡りょうすけ

行政視察について（報告）

標記のことについて、下記のとおり実施しましたので報告します。

記

- | | | | |
|---|-------|---|-----|
| 1 | 視 察 者 | 岩岡りょうすけ、川上あさえ、福井利道、原なつ子、
福井美奈子 | 計5人 |
| 2 | 視察日時 | 令和8年7月8日（水）～7月9日（木）[2日間] | |
| 3 | 視 察 先 | ①鳥取県倉吉市（7月8日）
②島根県出雲市（7月9日） | |
| 4 | 視察項目 | ①鳥取県倉吉市
学校プール授業受け入れ事業について
②島根県出雲市
出雲大社を中心とした観光政策について | |
| 5 | 報告事項 | 別添のとおり | |

以 上

令和 8 年度 行政視察報告書

視 察 日 時	令和 8 年 7 月 8 日（水） 1 3 時 0 0 分 ～ 1 4 時 3 0 分
視 察 先	鳥取県倉吉市
視 察 内 容	学校プール授業受け入れ事業について
視 察 目 的 (視察先選定理由)	施設更新に係る多額の維持管理費や教職員の負担軽減を図るため、市営・民間プールの活用や学校間利用など、学校プールの効率的な運営手法について調査し、本市における今後の学校プールの在り方の参考とする。
調 査 概 要	学校プールの老朽化の現状や維持管理費、教職員の負担、今後の施設更新費用などについて説明を受けた。 施設の多くは建設から 3 0 年以上が経過しており、今後 1 0 年間で約 4 億 5 千万円の改修費が必要と試算されている。また、維持管理には教職員による清掃や水質管理、安全点検など多くの時間を要している。 こうした課題を踏まえ、市営温水プールや民間プール、学校間でのプール利用を検討。施設利用時間の調整やスクールバスによる移動、学校・プール施設・教育委員会の三者による連携体制の構築など、試行実施（今年で 3 年目）に向けた調整内容について説明を受けた。 令和 8 年には外部委員会「プールの在り方検討会」（委員は P T A、小中学校長会代表者、大学学部長、県、市）が開かれ、8 月 3 日には第 1 回会議が予定されている。
所 感 (意見・感想・今後の課題等)	学校プールは施設の老朽化だけでなく、維持管理に伴う教職員の負担や更新費用の増大など、多くの課題を抱えていることを改めて認識した。 一方で、市営・民間プールや学校間利用への転換は、施設更新費や維持管理費の抑制に加え、天候に左右されない学習環境や水質管理の向上、専門の指導員の指導による泳力の向上など多くのメリットが期待できることが分かった。 その反面、移動時間の確保や授業時間の調整、移動手段の手配、一般利用者との調整など、新たな課題も多く、学校・施設・教育委員会が密接に連携する体制づくりが不可欠であると感じた。特に 2 コマの授業時間の利用であっても、移動時間を除くと実質 1 コマ分しか水泳の時間を確保できないこととなる。 本市においても、学校プールの更新時期を見据え、施設更新費と外部施設活用の費用対効果を比較するとともに、児童生徒の教育環境や教職員の負担軽減の両面から最適な手法を検討していく必要があると感じた。

令和 8 年度 行政視察報告書

視 察 日 時	令和 8 年 7 月 9 日（木） 1 0 時 0 0 分 ～ 1 1 時 3 0 分
視 察 先	島根県出雲市
視 察 内 容	出雲大社を中心とした観光政策について
視 察 目 的 (視察先選定理由)	観光地域経営（DMO）の考え方や、地域資源を活用した観光振興、データを活用したマーケティング、官民連携による持続可能な観光まちづくりについて調査し、本市の観光政策の参考とする。
調 査 概 要	出雲市では観光を地域経済の活性化だけでなく、「住んでよし、訪れてよし」の持続可能なまちづくりの原動力として位置付けている。 観光地域経営（DMO）の考え方の下、行政・観光協会・地域・事業者が役割分担を明確にし、データを活用したマーケティングや地域観光戦略会議を通じた P D C A サイクルを実践している。また、公式予約サイト等の情報発信、地域資源の磨き上げに加え、A I による渋滞予測をはじめ民間企業との包括連携など、民間のノウハウを積極的に取り入れた観光施策について説明を受けた。 質疑では、出雲市が目指す観光は単なる誘客ではなく、地域の価値を理解し、地域文化を「楽しめる人」を増やす「観光地経営」の考え方であることや、神話についても宗教ではなく歴史・文化資源として位置づけ、学校教育においても郷土教育を実施していることなどについて説明を受けた。
所 感 (意見・感想・今後の課題等)	出雲市の観光政策で最も印象に残ったのは、「観光客を増やす」のではなく、「地域の価値を理解し、楽しんでもいただける方に選ばれる観光地を経営する」という考え方である。行政計画でありながら、民間企業の経営感覚を取り入れ、ターゲットを明確にしたマーケティングやデータ分析を重視している点は、本市においても参考となる視点であった。 また、神話を宗教ではなく地域文化として継承し、小学校で地域を題材にした副読本を活用した郷土教育を実施していることも印象的であった。芦屋市においても、打出の小槌や鶴伝説など地域固有の歴史や伝承が存在することから、今後の郷土教育やシビックプライドの醸成に活用できる可能性を感じた。 一方で、出雲市では年間約 9 0 0 万人が訪れる一方、インバウンドは約 1 万 7 千人にとどまっており、重点市場を台湾・フランスに置いた戦略的な誘客を進めている。また、ゴールデンウィークや神在祭などでは大社周辺でオーバーツーリズムが発生し、約 2, 0 0 0 台の駐車場では対応しきれず、交通渋滞や住民生活への影響、年間約 4, 0 0 0 万円に及ぶ交通整理経費などの課題も抱えていた。観光振興は誘客だけでなく、交通や財源、住民生活との調和まで含めたマネジメントが不可欠であることを再認識した。 さらに、質疑では宿泊税や駐車場収入など観光財源の確保についても議論がなされ、観光を持続可能な行政施策とするためには、安定した財源を確保しながら地域全体で支える仕組みづくりが重要であることを学んだ。 本市においても、芦屋ならではの自然・景観・文化・歴史を磨き上げるとともに、データに基づく観光政策、官民連携による地域マネジメント、郷土教育との連携など、「住んでよし、訪れてよし」の観光まちづくりを推進していく必要があると感じた。

視察の様子（令和８年度 行政視察）

視 察 先 ①

7 月 8 日
鳥取県倉吉市



倉吉市役所を訪問しました。

教育委員会教育総務課及び
社会教育課の職員の方にご
説明いただきました。

視 察 先 ②

7 月 9 日
島根県出雲市



出雲市役所を訪問しました。

観光課の職員の方にご説明
いただきました。